

## 2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義実習
科 目 名	異文化コミュニケーション		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年次		学期及び曜時限	通年	教室名	視聴覚室・講堂
担 当 教 員	橋本由里	実務経験と その関連資格	島根県立大学看護栄養学部勤務			
《授業科目における学習内容》						
異文化コミュニケーションは、他の民族とどのような関係(コミュニケーション)をつくっていくのかがテーマである。異なった民族・文化の人を理解し、国際社会・国際看護・医療活動の一助となるように講義を構成する。実際に現地アメリカでの看護に触れる体験学習も含まれている。						
《成績評価の方法と基準》						
出席並びに課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
マイルズ・L・パターン(著)大坊郁夫(監訳) 「ことばにできない想いを伝える-非言語コミュニケーションの心理学」 誠信書房						
《授業外における学習方法》						
配布資料、テキストを読み予習・復習を行う。グループワークによる調べ学習を行う。						
《履修に当たっての留意点》						
海外研修を含む。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	海外研修について目的・目標が確認できる。	海外研修資料	海外研修に向けたグループワーク、各役割での準備	
		各コマにおける授業予定	1. 海外研修の意義・目的・目標・スケジュールについて			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	カレッジでの研修、講義、メディカル・シミュレーション実習に積極的に質疑応答ができる。	海外研修資料	質疑応答ができるよう事前準備をしておく。	
		各コマにおける授業予定	カレッジでの研修、講義、メディカル・シミュレーション実習、			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	カレッジでの研修、講義、メディカル・シミュレーション実習に積極的に質疑応答ができる。	海外研修資料	質疑応答ができるよう事前準備をしておく。	
		各コマにおける授業予定	カレッジでの研修、講義、メディカル・シミュレーション実習、			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	施設見学、学生発表・文化交流で積極的に質疑応答・交流ができる。	海外研修資料	積極的に質疑応答・交流ができるように準備しておく。	
		各コマにおける授業予定	施設見学、学生発表・文化交流			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	海外研修を通しての学びを発表することができる。	海外研修資料	海外研修後の振り返り発表に向けた準備	
		各コマにおける授業予定	海外研修の振り返り発表			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	文化とは何か、昨今の異文化の諸問題－移民など－、コミュニケーションとは。について説明できる。	テキスト AV機器	配布資料、テキストを読み予習・復習を行う。
		各コマにおける授業予定	文化とは何か、昨今の異文化の諸問題－移民など－、コミュニケーションとは。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	非言語コミュニケーションの特徴、チャンネル－顔のチャンネル、表情分析について説明できる。	テキスト AV機器	配布資料、テキストを読み予習・復習を行う。
		各コマにおける授業予定	非言語コミュニケーションの特徴、チャンネル－顔のチャンネル、表情分析		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	表情の機能－身分証明書、感情表出、表図表出など、微表情とは、感情労働について説明できる。	テキスト AV機器	配布資料、テキストを読み予習・復習を行う。
		各コマにおける授業予定	表情の機能－身分証明書、感情表出、表図表出など、微表情とは、感情労働		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	看護場面における表情の重要性、表情フィードバック仮説、視線行動について説明できる。	テキスト VHS	配布資料、テキストを読み予習・復習を行う。
		各コマにおける授業予定	看護場面における表情の重要性、表情フィードバック仮説、視線行動について		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護場面における視線の重要性、視線の機能－モニタリング、会話調節、感情表出、－視線の規範、視線の作法について説明できる。	テキスト AV機器	配布資料、テキストを読み予習・復習を行う。
		各コマにおける授業予定	看護場面における視線の重要性、視線の機能－モニタリング、会話調節、感情表出、－視線の規範、視線の作法		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	視線行動の理論、瞳孔反応、まばたきの機能、身体の動き(身振り、手振り)の機能について説明できる。	テキスト AV機器	配布資料、テキストを読み予習・復習を行う。
		各コマにおける授業予定	視線行動の理論、瞳孔反応、まばたきの機能、身体の動き(身振り、手振り)の機能		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	しぐさの重要性、介護場面での身体の動き、異文化におけるジェスチャーの違いについて説明できる。	テキスト VTR	配布資料、テキストを読み予習・復習を行う。
		各コマにおける授業予定	しぐさの重要性、介護場面での身体の動き、異文化におけるジェスチャーの違い		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	ブラジル、フィンランドの国際交流員(市役所)の話聞き、自分の考えをまとめることができる。	テキスト AV機器	配布資料、テキストを読み予習・復習を行う。授業後自己の考えをまとめる。
		各コマにおける授業予定	ブラジル、フィンランドの国際交流員(市役所)を招いての異文化コミュニケーションの話		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	対人距離、空間行動、パラ言語について、看護場面での意味、文化の違いについて説明できる。	テキスト AV機器	配布資料、テキストを読み予習・復習を行う。
		各コマにおける授業予定	対人距離、空間行動、パラ言語について、看護場面での意味、文化の違い		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	服装、化粧、臭いなどの影響について、異文化非言語コミュニケーションの解説(演習)について自己の考えを述べる事ができる。	テキスト AV機器	配布資料、テキストを読み予習・復習を行う。授業後自己の考えをまとめる。
		各コマにおける授業予定	服装、化粧、臭いなどの影響について、異文化非言語コミュニケーションの解説(演習)		